

安全保障と天文学

意見2

私の理解では"暴力も辞さないで、国民を守るとのこと"が軍事的安全保障であり、この言葉が今の時代に現れているのは社会が要求していることだと感じているからです。ところが社会の要求している事柄は、人間が塾考して得られたものではなくそのときの情感、雰囲気によって形成されていると私は思います。近年での"ヘイトスピーチ"や極右のような思考で分断が生じてきているのもなんとなく気に食わないという想いが噴出した結果だと思えるのです。そこで軍事的安全保障がなぜ出てきたかという、憲法の違反ということではなく、軍事技術がやはり儲かるからだだと思います。近年になって防衛省から安全保障技術研究推進制度が出されたのも、軍事技術の開発がやはり儲かる可能性があるからだとは私は思っています。

この儲かるという欲を非難することはできません。貧しいというのは確かに辛いことではあるので、貧しくないようにするというのは必要なことでしょう。しかし、軍事を持つ、暴力を振るう力を持つというときは必ずそれを行使したくなるものです。ところが、何も無いのに行使するとそれは非難を浴びるので暴力を行使するために"大義名分"を作ります。その"大義名分"の元に暴力をふるうわけですが、どんな"大義名分"を作ろうとも人を殺しをするわけですから、とても容認できることではありません。

人殺しはなぜダメなのかという問いに答えることは難しいですが、私は好きな人や嫌いな人がいるのが社会で、そういった人との関係を楽しむのが人生であり、そういった人との関係を絶ってしまう人殺しはとても許せません。個人による殺人は、個人が罪悪感や迷いを感じますが国家が引き起こす戦争は、そういった罪悪感が国が作った"大義名分"によって薄められてしまいます。結果として、戦争後PTSDを発症し苦しむことになるのです。

軍事技術は国内だけでなく、別の国にも輸出され、別の場所で使われることが考えられます。つまり、他国でそういった国家による戦争を誘発し関係ない人が戦争による被害者になるのです。それは想像するだけで恐ろしいことです。これは殺人の幫助にもあたることです。

こういう考えなので、須藤先生の話にもありました(d)自分の研究は募集テーマに関係しないが、この制度の応募には反対に一票を投じます。軍事的安全保障研究は人を殺す可能性が限りなく高い技術を開発することであり、倫理的に到底受け入れられないものです。こういう考えをできる限り次世代を引っ張る人にも浸透させていくことこれが今後必要なことだと思います。なので、議論の場を設け、議論の結果を世の中に発信していき、人を感化していくことがやるべきことでしょう。そして、これはとても根気のいることでしょう。たとえ、シジフォスの岩のように何度も繰り返さなければいけないことであっても決して議論をすることをやめてはいけないことだと私は思います。

最後に、敬愛してやまない森毅の言葉を引用して終わります。

本当に自分を大事にする人間は、他人を粗末にしたりはしない。なぜなら、他人は自分のためであって、その他人を粗末にすると、自分にとって損になるからだ。本当に自分を大事にする人間は、社会を無視することはない。なぜなら、自分は社会の中であって、その社会を無視しては生きてはいけないからだ。そうして、人間たちがそれぞれ、自分をなにより大事にしながら暮らしていく世界、それがやさしさの世界であるとすれば、やさしさの時代とは、とてもよいことと思う。いま、りりしさを求めて飛び立ってはいけない。そうした時代なのだ。

――森毅『まちがったっていいじゃないか』やさしさの時代に より引用